

2024・10

# 柏の景気情報

令和6（2024）年10月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和6年10月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年9月20日～令和6年10月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数74

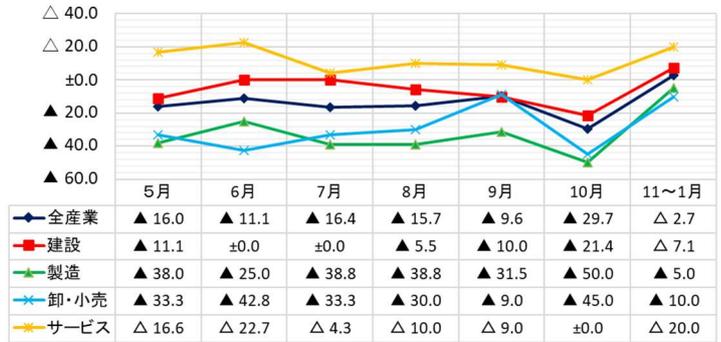
### 最低賃金の上昇に伴う固定費の増加。人手不足は未だ解消されず、人材確保に苦戦のコメント多数

10月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲29.7（前年水準▲9.6）となりマイナス幅が20.1ポイント拡大した。

各業界、10月からの最低賃金上昇を含めた固定費の増加が継続しており、利益の圧迫が継続。

製造業では、一部価格転嫁が行われるも、賃上げ・エネルギー上昇分は未だ出来ておらず、売上は上がるが利益は低下する傾向が継続している。また、卸・小売業では、全般的な原材料の値上げによる景況から、消費者の買い控えによる売上減少を懸念する声も上がっている。

柏の景気情報・産業別業況DI



## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「政治的には不安感があるが、今後、業況的には近年の気候変動への対応による防災関連事業への受注増、また今月からCOP29がアゼルバイジャンで開催され、日本全体で脱炭素対応へのエネルギー事業などの受注増が期待される」（地質調査）「補助金の申請が通年ではないので、申請時期に工事が集中しがちである」（一般土木建築工事）



「売り上げは、顕著になってきているがコスト増につき、収益はダウン。旧設備を新規設備に切り替えるタイミングに差し掛かっている。現従業員の能力向上が必要なため、教育体系の見直しを検討。」（その他の鉄鋼）「新製品の販売により売上数量は増加。但し、製品トータルで海外輸出が計画に及ばず対前年で利益減少。10月からの最低賃金の引き上げに伴い、初任時給の引き上げを実施。退職等に伴う欠員については随時補充採用ができています。」（酒類製造）「2025年の年明けから3月の年度末にかけて業績見通しが難しくなっている。」（その他の機械・同部品製造業）



「全般的に原材料の値上げがあるが、チョコレートは異常。買い控えも予想され、売り上げ減少。」（洋菓子店）「全般的に気温が高く、月の半数以上が雨曇天候も影響し入店は堅調も、アパレル関連は苦戦が続き、食関連もやや鈍化傾向。年末に向け「更なる節約志向」に取引先から不安視の声あり。」（百貨店）「人手不足対策として営業時間の短縮、定休日の設定を検討。」（その他の各種商品小売業）



「仕事は増えているが、十分な利益が出せているとは言えない。国が進めているデジタル化の波があるので、数年は仕事が減ることはない予想される。」（コンピュータソフトウェア開発）「サービス業だが定額減税の恩恵は全く無かった。年間を通じて仕入れ、消耗品、光熱費、修繕費、人件費が上がり続けており利益が圧迫される状況にある。」（ゴルフ練習場）「国内の旅行シーズン終わり、過去（コロナ前）は年末年始の海外旅行が増加になるが、低調。海外の物価高、円安などによりまだまだ以前のよう状態にはなっていない。」（旅行）「築浅物件の賃料上昇を実感するが、販管費も上昇している。デフレ感を感じない。」（不動産賃貸・管理）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲29.7に対し、「CCI-LOBO」が▲17.2で、柏のほうがマイナス幅が12.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.7	 ▲ 21.4	 ▲ 50.0	 ▲ 45.0	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.2	 ▲ 11.8	 ▲ 23.4	 ▲ 24.1	 ▲ 6.9
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.1	 ▲ 7.1	 ▲ 25.0	 ▲ 25.0	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 4.8	 ▲ 2.4	 ▲ 14.1	 8.8	 8.9
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.9	 ▲ 14.2	 ▲ 50.0	 ▲ 40.0	 15.0
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 14.2	 ▲ 21.4	 ▲ 23.3	 ▲ 6.1
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 62.1	 ▲ 42.8	 ▲ 60.0	 ▲ 75.0	 ▲ 65.0
CCI-LOBO	 ▲ 64.6	 ▲ 67.0	 ▲ 60.7	 ▲ 70.3	 ▲ 62.8
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.6	 28.5	 5.0	 15.0	 40.0
CCI-LOBO	 23.1	 37.5	 12.5	 20.9	 28.8
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 5.4	 ±0.0	 ▲ 20.0	 ▲ 10.0	 10.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.0	 ▲ 7.1	 ▲ 15.2	 ▲ 20.4	 ▲ 10.0

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：2024年10月16日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは物価高による消費低迷が続く、再び悪化

先行きは、長引く経営課題多く、力強さを欠く

10月の全産業合計の業況DIは、▲17.2と前月比からマイナス3.1ポイント。

小売業は、消費者の買い控えが重く、悪化した。サービス業は、秋の行楽シーズンで宿泊業は堅調な一方、生活関連サービス等が下押しし、悪化した。また、卸売業は、小売業・サービス業からの引き合い減少に加え、農畜産水産物関係では天候不順による価格高騰で収益悪化も見られ、悪化した。建設業は、資材価格の高騰や住宅関連の受注不振で、悪化した。製造業は、自動車関係がけん引し、改善したが、小幅に留まっている。

人手不足の中、人材確保に向けた賃上げ等を行っているものの、価格転嫁は十分に追いついておらず、中小企業の業況は再び悪化に転じた。

先行き見通しDIは、▲1

5. 1と今月比からプラス2.1ポイント

電気・ガス代への補助などが見込まれる新たな経済対策や、高い賃上げに伴う冬の賞与増加による消費拡大への期待感がうかがえる。

一方、長引く物価高の中、実質賃金が再びマイナス転換し、個人消費の低迷が景気回復の足かせとなっている。また、コスト増や人手不足、価格転嫁の遅れ等、経営課題は長期化しており、中小企業の先行きは力強さに欠ける。

#### 【建設業】

「短期間の民間工事では、都度見積もりを出して価格交渉を行っており、取引先からも受け入れられている。一方で、工期の長い工事では、見積もり時から二度・三度と資材価格が上がるため、利益率が悪く、経営に影響が出て

いる」(一般工事業)

「案件があっても、深刻な技術者不足で受注体制ができておらず、断らざるを得ない状況が発生している」(建築工事業)

#### 【製造業】

「受注が増加する中、日本人材の採用は依然として厳しく、外国人材の雇用により補完している。一方で、労働時間の上限規制等で思うように生産量を増やせないため、設備投資にも取り組んでいく必要を感じている」(鉄鋼業)

「受注が増加傾向にあり、人材採用・育成ができれば増収増益を見込めるが、現状では人手不足で断る案件も発生している」(産業用電気機械器具製造業)

#### 【卸売業】

「異常気象により、秋冬野菜の供給量が安定せず、価格が高騰している。取引価格が高騰すると、需要が減少するため、収益の悪化につながっている」(農畜産水産物卸売業)

「個人消費が冷えこんでおり、売上が伸び悩んでいる。消費喚起につながる政策を期待したい」(日用品・生活関連商品卸売業)

「インバウンド観光客や富裕層による高付加価値商品の売上で現状維持が出来ているものの、物価上昇で消費者の購買意欲は依然として低い。最低賃金も引上げられるため、労務費の上昇が見込まれ、厳しい経営環境が続くであろう」(百貨店)

#### 【小売業】

「売上が伸び悩む中、購入者の半数がキャッシュレス決済を利用しており、手数料負担が大きくなり、収益を圧迫している」(スポーツ用品小売業)

#### 【サービス業】

「最低賃金の引き上げに伴い、パート従業員の給与改定を行ったことにより、就労調整が例年よりも早く始まっている。もともと人手不足で需要の取りこぼしが発生している中、年末にかけて一層の損失を懸念している」(飲食店)

「労働時間の上限制制に伴い、より多くの人材を確保する必要はあるが、募集をかけても全く応募がない状態が続いている」(運送業)

### 全国・産業別業況DIの推移

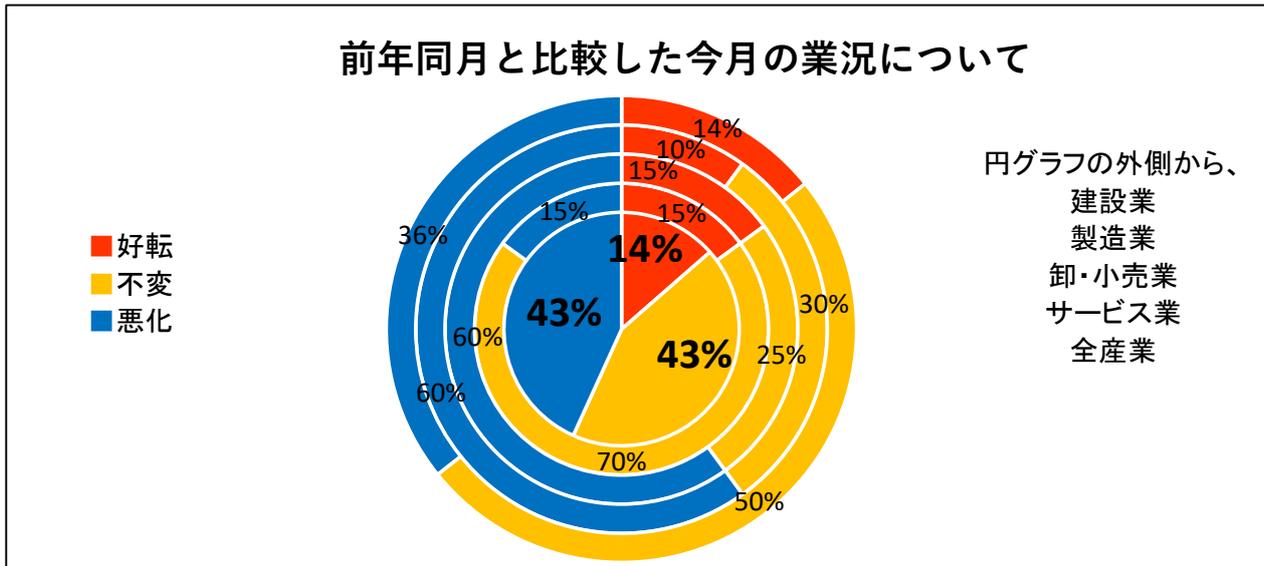
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲11.4	▲16.5	▲13.6	▲14.8	▲16.6	▲0.8
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲6.0
7月	▲16.3	▲13.1	▲22.8	▲24.0	▲20.8	▲5.4
8月	▲15.4	▲11.6	▲24.4	▲19.9	▲18.4	▲5.2
9月	▲14.1	▲8.4	▲23.4	▲16.1	▲18.7	▲4.3
10月	▲17.2	▲11.8	▲22.0	▲26.1	▲24.1	▲6.9
見通し	▲15.1	▲10.3	▲17.5	▲18.9	▲20.9	▲9.9

# 令和6年（2024年）10月の動向

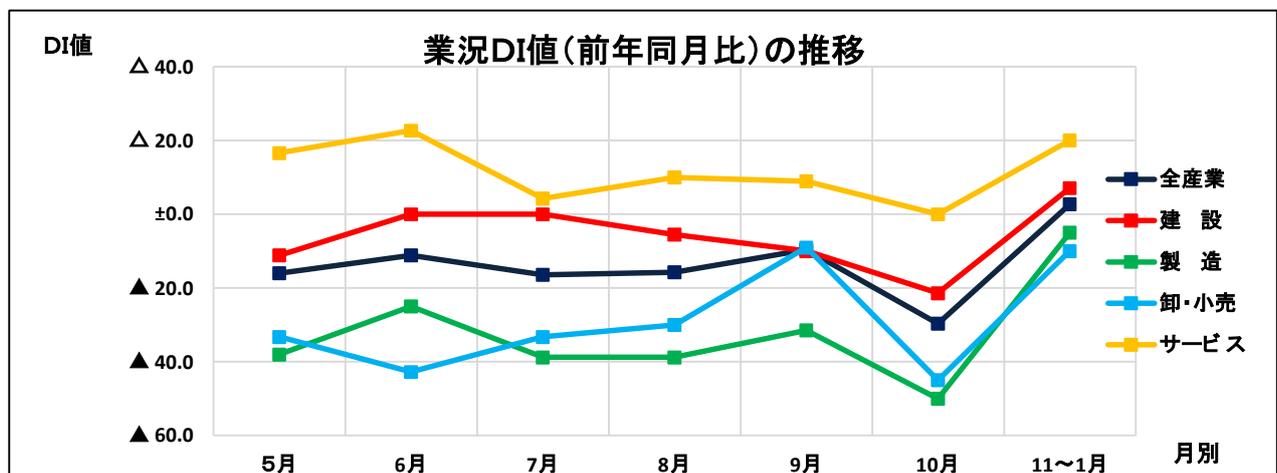
## 【業況について】

- 10月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲29.7（前月水準▲9.6）となり、マイナス幅が20.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（11月から1月）の先行き見通しについては、全産業では、△2.7（前月水準▲2.4）となり、マイナス幅が5.1ポイント縮小した。



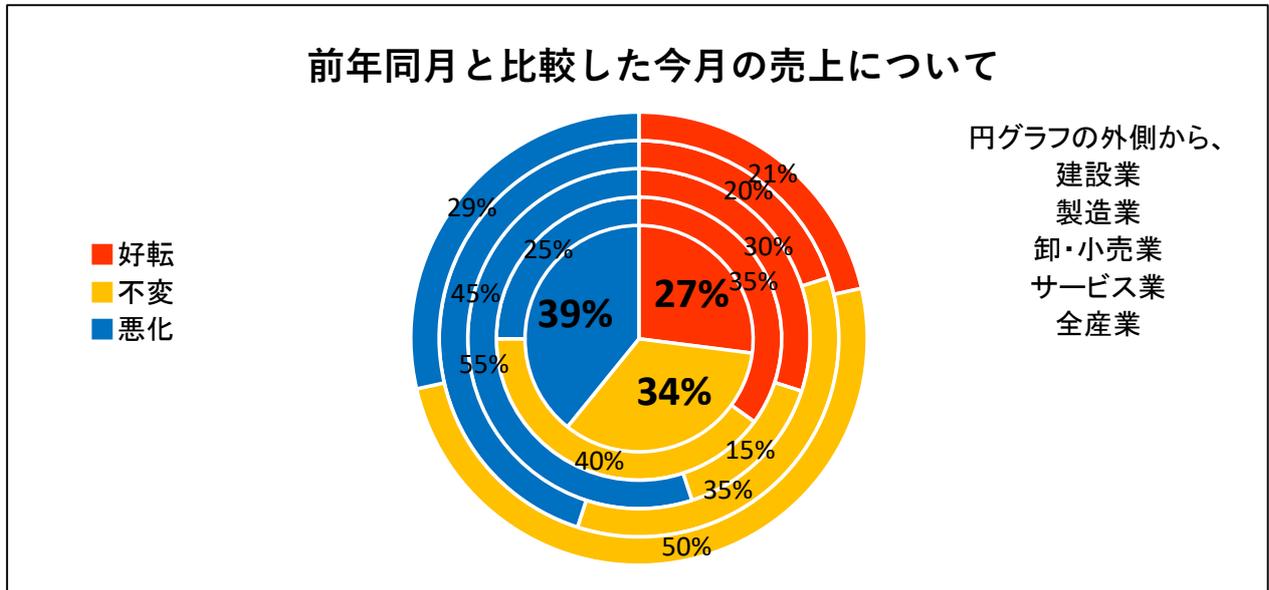
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月	(10~12月)
全産業	▲16.0	▲11.1	▲16.4	▲15.7	▲9.6	▲29.7	△2.7	(▲2.4)
建設	▲11.1	±0.0	±0.0	▲5.5	▲10.0	▲21.4	△7.1	(△10.0)
製造	▲38.0	▲25.0	▲38.8	▲38.8	▲31.5	▲50.0	▲5.0	(▲5.2)
卸・小売	▲33.3	▲42.8	▲33.3	▲30.0	▲9.0	▲45.0	▲10.0	(▲13.6)
サービス	△16.6	△22.7	△4.3	△10.0	△9.0	±0.0	△20.0	(±0.0)



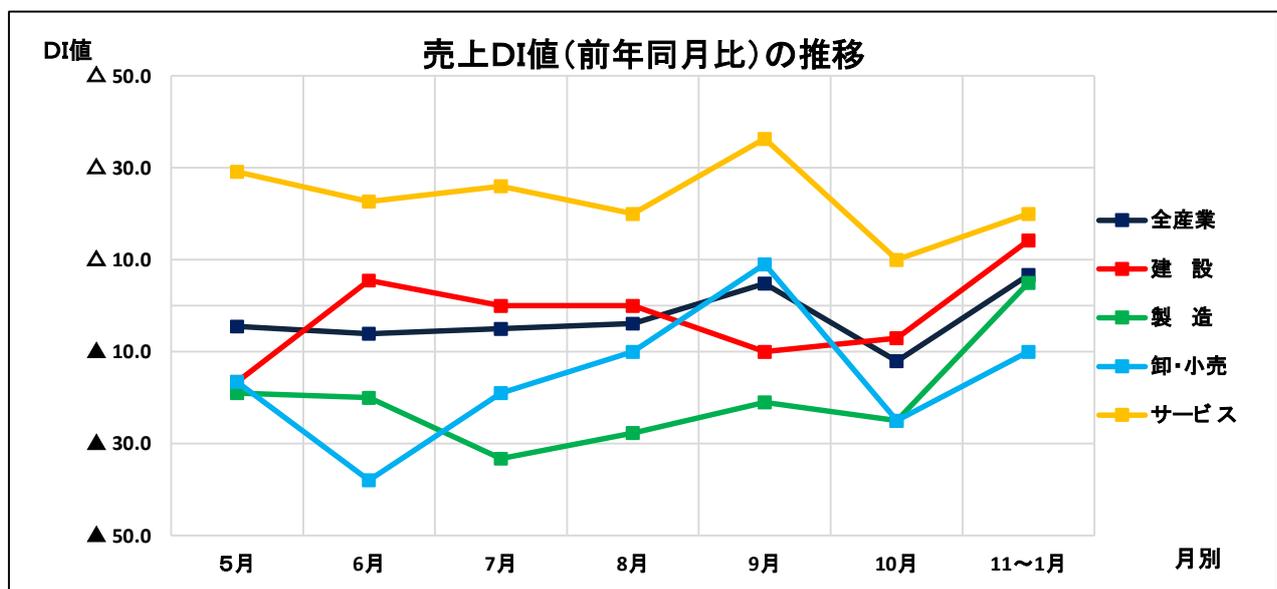
【売上について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.1(前月水準△4.8)となり、マイナス幅が16.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.7(前月水準△8.4)となり、プラス幅が1.7ポイント縮小した。



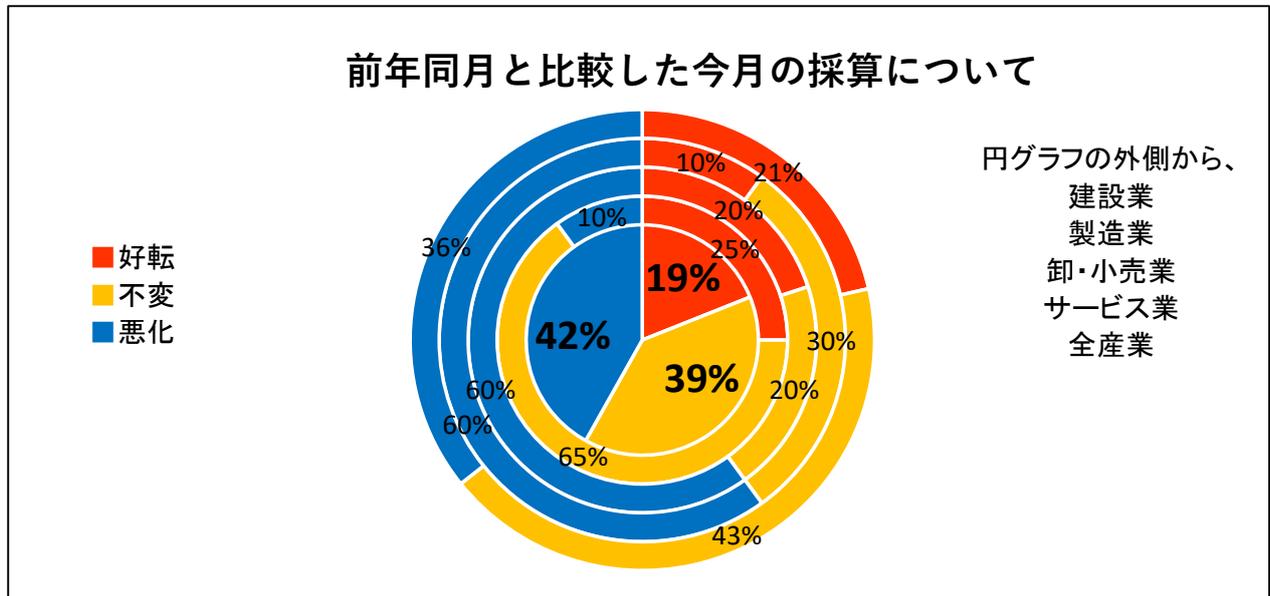
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月	(10~12月)
全産業	▲4.5	▲6.1	▲5.0	▲3.9	△4.8	▲12.1	△6.7	(△8.4)
建設	▲16.6	△5.5	±0.0	±0.0	▲10.0	▲7.1	△14.2	(△10.0)
製造	▲19.0	▲20.0	▲33.3	▲27.7	▲21.0	▲25.0	△5.0	(△10.5)
卸・小売	▲16.6	▲38.0	▲19.0	▲10.0	△9.0	▲25.0	▲10.0	(±0.0)
サービス	△29.1	△22.7	△26.0	△20.0	△36.3	△10.0	△20.0	(△13.6)



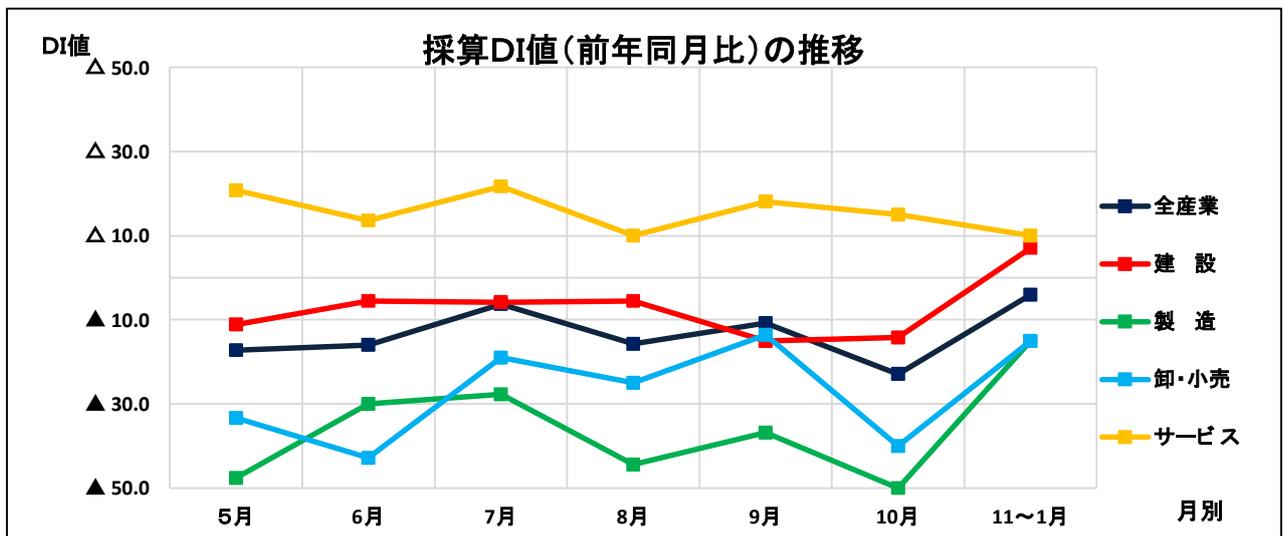
【採算について】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.9(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が12.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.0(前月水準▲8.4)であり、マイナス幅が4.4ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

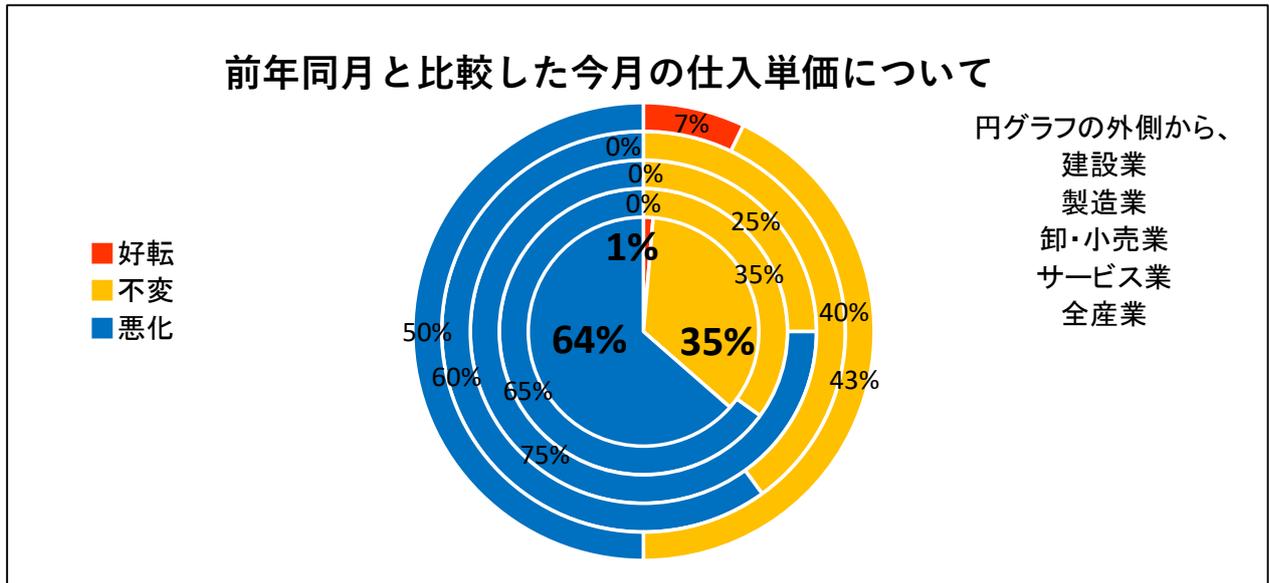
	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月	(10~12月)
全産業	▲17.2	▲16.0	▲6.3	▲15.7	▲10.8	▲22.9	▲4.0	(▲8.4)
建設	▲11.1	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲15.0	▲14.2	△7.1	(△5.0)
製造	▲47.6	▲30.0	▲27.7	▲44.4	▲36.8	▲50.0	▲15.0	(▲21.0)
卸・小売	▲33.3	▲42.8	▲19.0	▲25.0	▲13.6	▲40.0	▲15.0	(▲13.6)
サービス	△20.8	△13.6	△21.7	△10.0	△18.1	△15.0	△10.0	(▲4.5)



【仕入単価について】

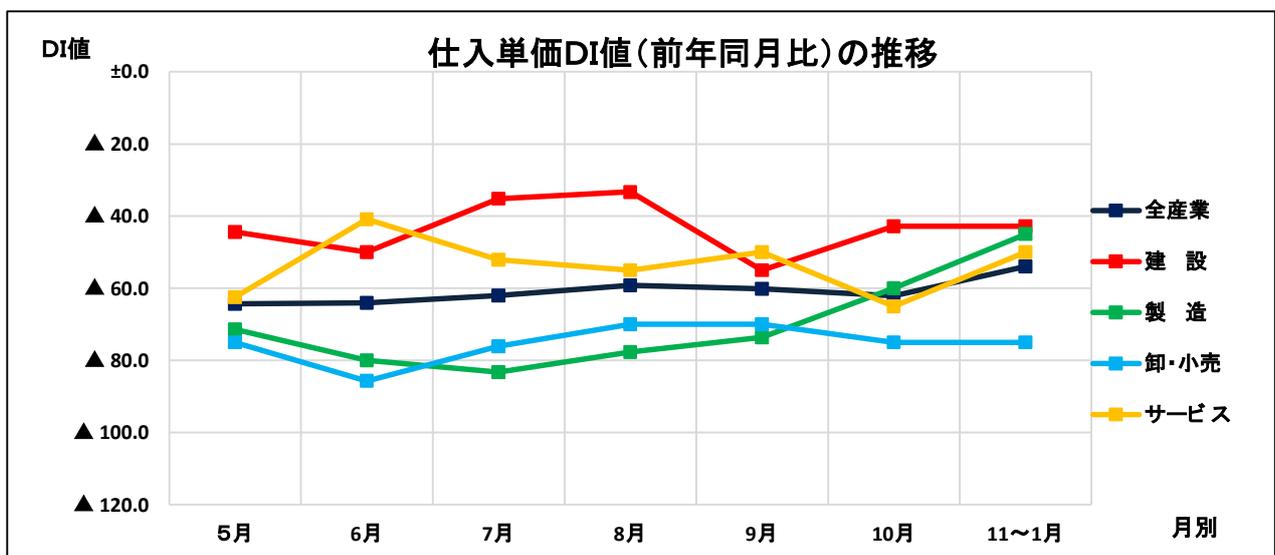
○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.1(前月水準▲60.2)となり、マイナス幅が1.9ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲54.0(前月水準▲53.0)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

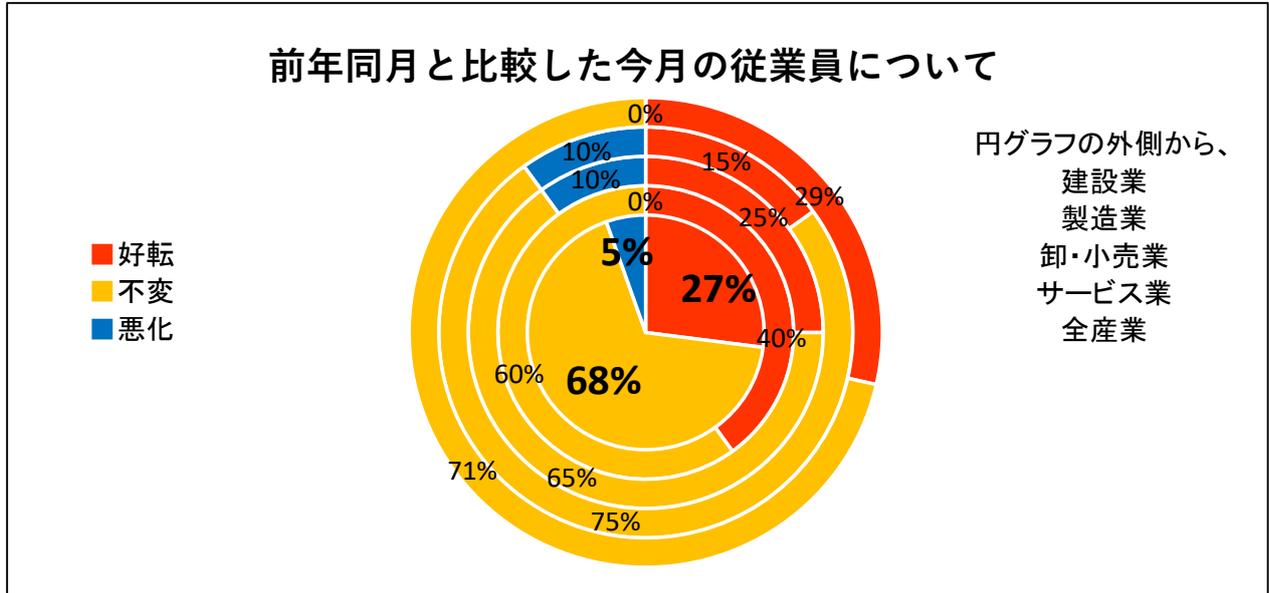
	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月	(10~12月)
全産業	▲64.3	▲64.1	▲62.0	▲59.2	▲60.2	▲62.1	▲54.0	(▲53.0)
建設	▲44.4	▲50.0	▲35.2	▲33.3	▲55.0	▲42.8	▲42.8	(▲40.0)
製造	▲71.4	▲80.0	▲83.3	▲77.7	▲73.6	▲60.0	▲45.0	(▲73.6)
卸・小売	▲75.0	▲85.7	▲76.1	▲70.0	▲70.0	▲75.0	▲75.0	(▲63.6)
サービス	▲62.5	▲40.9	▲52.1	▲55.0	▲50.0	▲65.0	▲50.0	(▲36.3)



【従業員について】

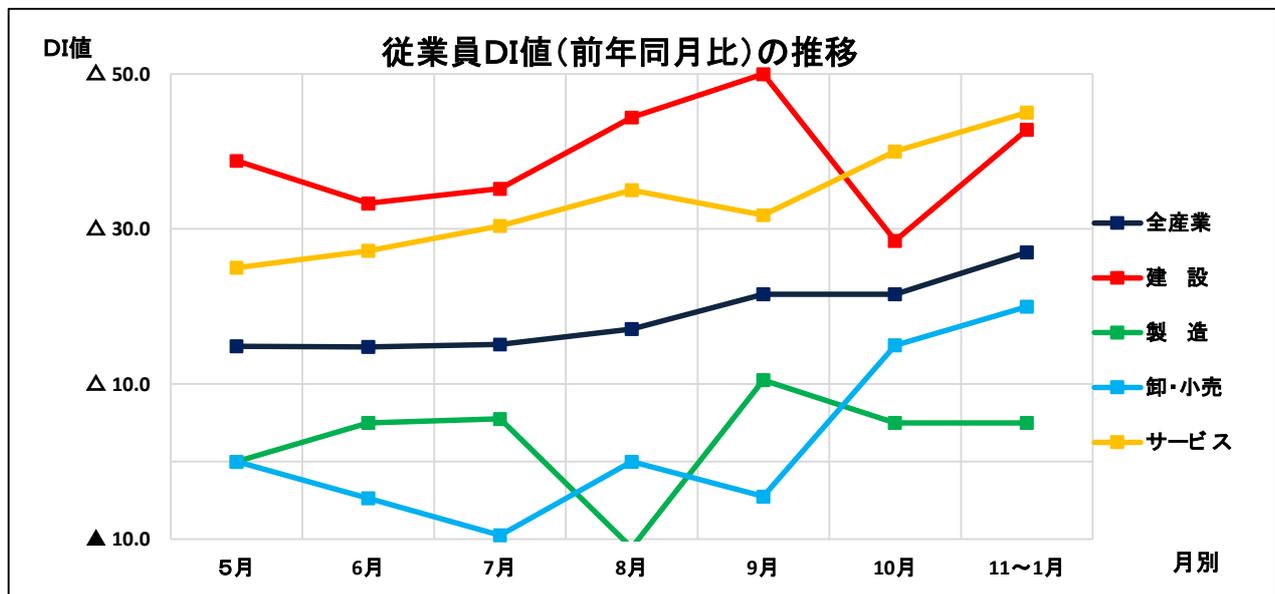
○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.6(前月水準△21.6)となり、ポイント差は0.0となった。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△27.0(前月水準△26.5)となり、プラス幅が0.5ポイント拡大する見通しである。



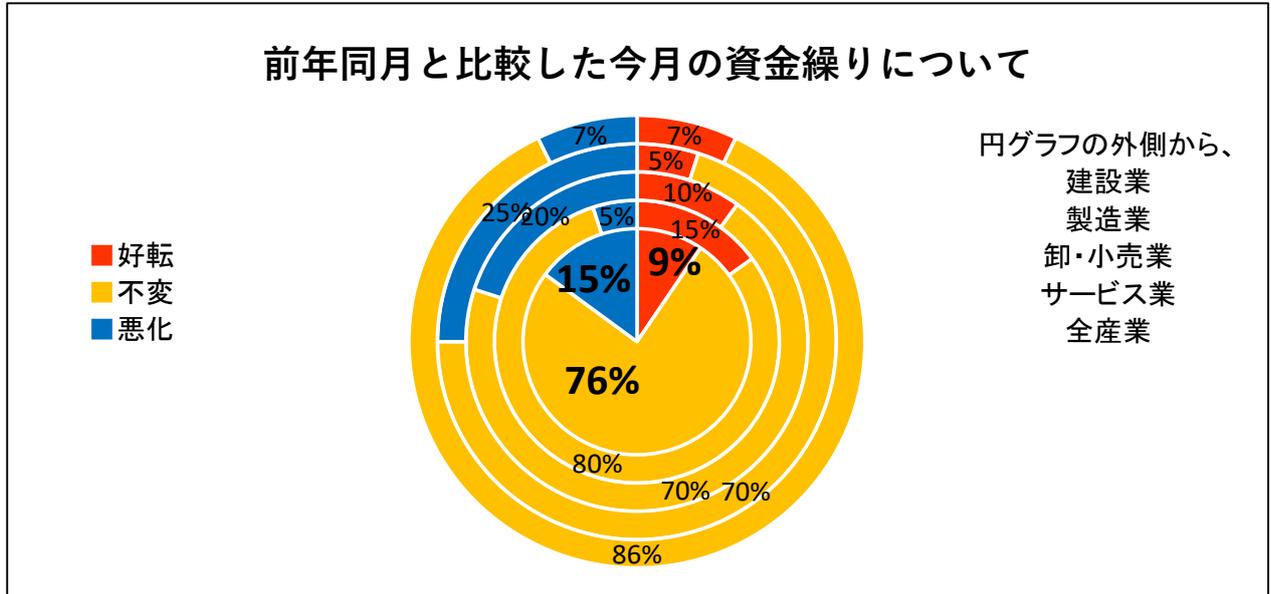
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11~1月	(10~12月)
全産業	△14.9	△14.8	△15.1	△17.1	△21.6	△21.6	△27.0	(△26.5)
建設	△38.8	△33.3	△35.2	△44.4	△50.0	△28.5	△42.8	(△50.0)
製造	±0.0	△5.0	△5.5	▲11.1	△10.5	△5.0	△5.0	(△15.7)
卸・小売	±0.0	▲4.7	▲9.5	±0.0	▲4.5	△15.0	△20.0	(△4.5)
サービス	△25.0	△27.2	△30.4	△35.0	△31.8	△40.0	△45.0	(△36.3)



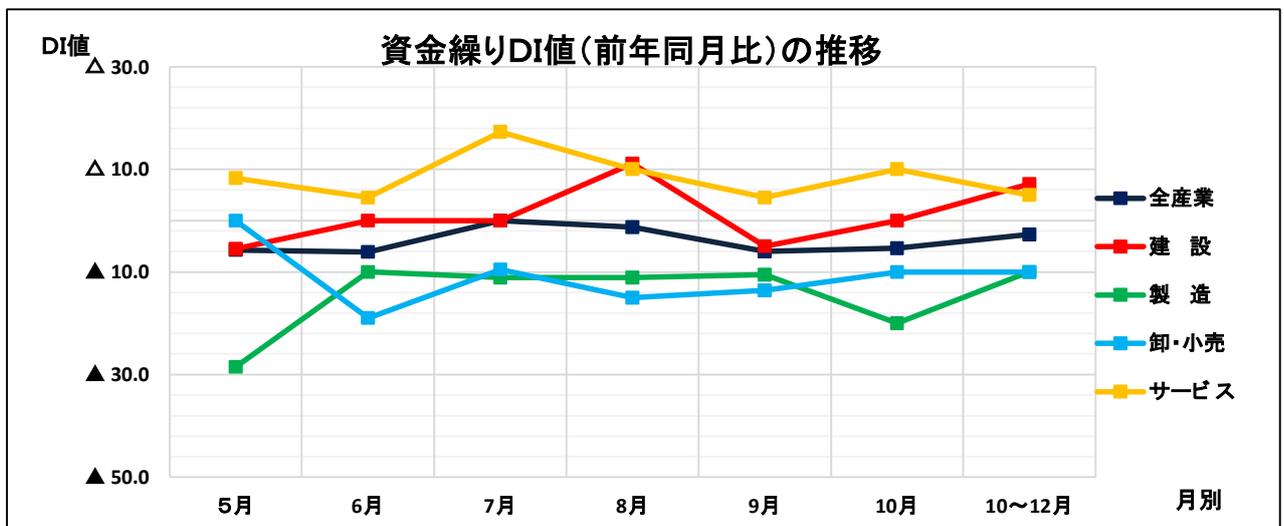
【資金繰りについて】

- 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.4(前月水準▲6.0)となり、マイナス幅が0.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.7(前月水準▲1.2)となり、マイナス幅が1.5ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	10~12月 (10~12月)	
全産業	▲5.7	▲6.1	±0.0	▲1.3	▲6.0	▲5.4	▲2.7 (▲1.2)	
建設	▲5.5	±0.0	±0.0	△11.1	▲5.0	±0.0	△7.1 (△10.0)	
製造	▲28.5	▲10.0	▲11.1	▲11.1	▲10.5	▲20.0	▲10.0 (▲10.5)	
卸・小売	±0.0	▲19.0	▲9.5	▲15.0	▲13.6	▲10.0	▲10.0 (±0.0)	
サービス	△8.3	△4.5	△17.3	△10.0	△4.5	△10.0	△5.0 (▲4.5)	

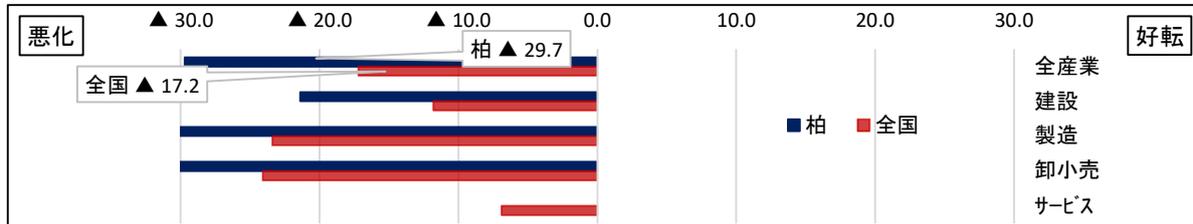


# 全国（CCI-LOBO）との比較

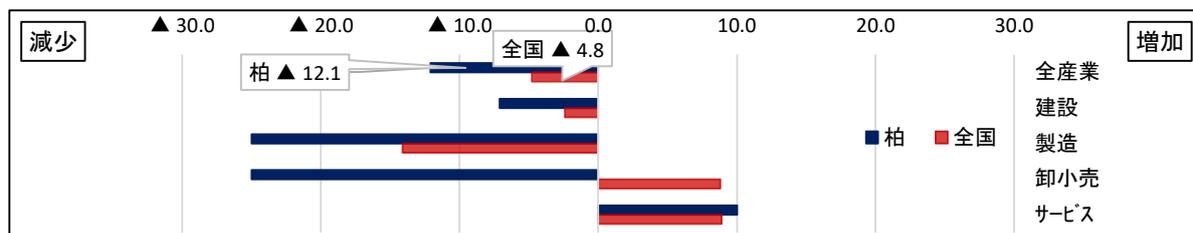
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

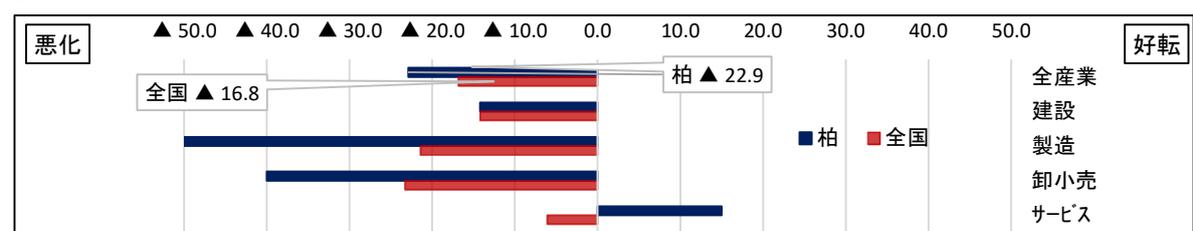
### 【業況D I】



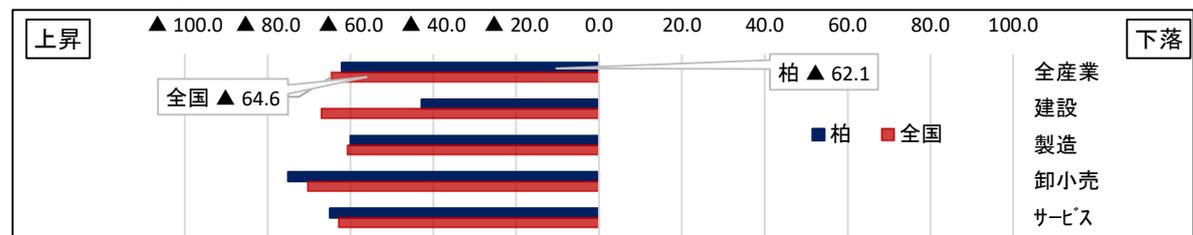
### 【売上D I】



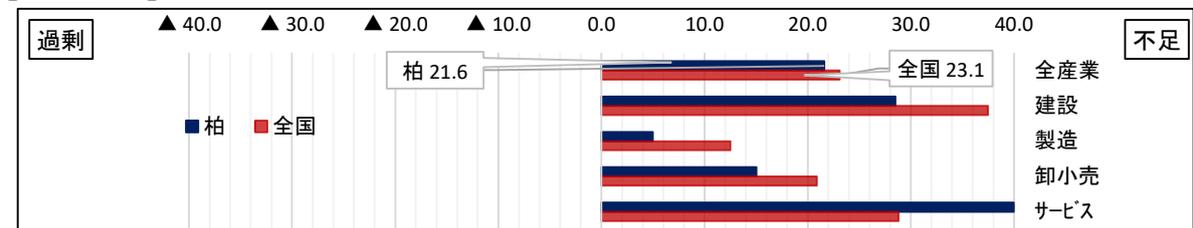
### 【採算D I】



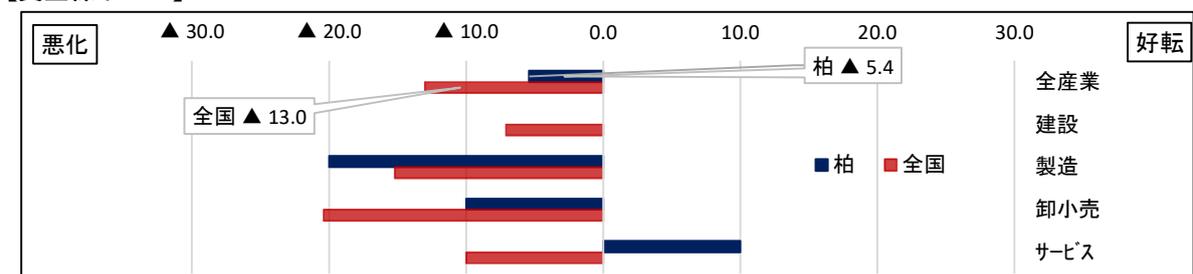
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	畳ヘリ小物や畳ヘリバッグ、七島いぐさ草履はキャッシュレス決済が多いので、電子帳簿保存が難しい。	畳工事請負・畳製造販売業
	補助金の申請が通年ではないので、申請時期に工事が集中しがちである	一般土木建築工事業
	政治的には不安感がありますが、今後、業況的には近年の気候変動への対応による防災関連事業への受注増、また今月からCOP29がアゼルバイジャンで開催されます。日本全体で脱炭素対応へのエネルギー事業などが受注増が期待されます。 キーワード：気候変動、脱炭素問題	地質調査・地質コンサルタント
製造業	医療品容器の新企画で何とか見通しはあるが、化粧品容器の受注が激減して深刻な売り上げ減少状況にある	プラスチック加工
	2025年年明けから3月の年度末にかけて業績見通しが難しくなっている	その他の機械・同部品製造業
	卸商材については仕入れ価格の上昇分を価格に転嫁しているが、エネルギー価格の上昇分や賃上げ分の価格転嫁は出来ていない。社内で製造している製品に関しては、材料費・エネルギー価格の上昇分でさえ価格転嫁できていないのが現状である。人手不足による人材募集についても、最低賃金のアップにより時給を大幅に上げざるを得ないが、その分だけ生産性の向上が必要であり、DX化等取り入れてはいるが、アップ分をカバーすることが難しいのが現状である。	自動車・同附属品製造業
	・新製品の販売により売上数量は増加。但し、製品トータルで海外輸出が計画に及ばず対前年で利益減少。 ・10月からの最低賃金の引き上げに伴い、初任時給の引き上げを実施。 ・退職等に伴う欠員については随時補充採用ができています。	酒類製造業
	売り上げは、顕著になってきているがコスト増につき、収益はダウン 旧設備を新規設備に切り替えるタイミングに差し掛かっている。 現従業員的能力向上が必要なため、教育体系の見直しを検討。	その他の鉄鋼業
	弊社、はじめての試みとしてオリジナルグッズを販売中です。柏の観光地にかわいらしいキャラクターを添えたポストカードです。地域の皆様やインバウンド対策にも役立ててもらいたい。	印刷業
	今年の4月からやっと値上げによる価格改定を実施することが出来た中、再度、材料費、運送費、エネルギーコスト、人件費を理由に仕入先から価格改定の要請が出てきた。自社製品をカタログ販売しているので、カタログ改定を行うには、少人数で運営している会社なのでかなりの労力を要する。競合大手の動向も影響が大きいので注意が必要。 また、増員で社員の募集を進めているが、人手不足の影響でなかなか人が集まらない。 景気が良い会社は、周りに少なく、失われた30年の重みを感じる。	その他の化学工業

## 【業種別】 業界内トピックス

<b>卸・小売業</b>	<p>閉店セールのため、売上は好調に推移しています。 質問の今後3か月の業況などは、すべて不変や適性で入力いたしました。 今回で最終の回答となります。 ありがとうございました。</p>	大型小売店
	<p>一般的に気温が高く、月の半数以上が雨曇天候も影響し入店は堅調も、アパレル関連は苦戦が続き 食関連もやや鈍化傾向。年末に向け「更なる節約志向」に取引先から不安視の声あり。</p>	百貨店
	<p>一般的に原材料の値上げがありますが、チョコレートは異常。買い控えも予想され、売り上げ減少。</p>	洋菓子店
	<p>* 人手不足対策として営業時間の短縮、定休日の設定を検討。</p>	その他の各種商品小売業
<b>サービス業</b>	<p>10月から時給を上げることになるが、学習塾は3月まで授業料の改訂が難しいため、最低賃金の改訂に伴う国や自治体からの支援があれば商工会議所から教えていただきたい。</p>	学習塾
	<p>築浅物件の賃料上昇を実感するが、販管費も上昇している。デフレ感を感じない。</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>仕事は増えているが、十分な利益が出せているとは言えない。国が進めているデジタル化の波がありますので、数年は仕事が減ることはないと予想される。</p>	コンピュータソフトウェア開発
	<p>サービス業だが定額減税の恩恵は全く無かった。年間を通じて仕入れ、消耗品、光熱費、修繕費、人件費が上がり続けており利益が圧迫される状況にある。</p>	ゴルフ練習場
<p>国内の旅行シーズン終わり、過去（コロナ前）は年末年始の海外旅行が増加になるが、低調 海外の物価高、円安などによりまだまだ以前のようにはなっていない。</p>	旅行	

# 調査要領

回答期間

令和6年10月21日 ~ 令和6年11月6日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	74	42.8%
建設	38	14	36.8%
製造	44	20	45.5%
卸・小売	46	20	43.5%
サービス	45	20	44.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				